

はじめての「リスクアセスメント」

～ 災害のリスクを減らして荷役作業を安全に ～

陸上貨物運送事業労働災害防止協会

1 「リスクアセスメント」ってなに？

労働災害を減少させる取組として「リスクアセスメント」という手法が普及してきています。リスクアセスメントとは何か、また、なぜ労働災害防止の効果が大きいのか、その仕組みを一緒に考え、体験してみましょう。

リスクアセスメントは
難しくないです



● 職場の「危険の芽」を事前に摘み取るから効果が大きい

リスクアセスメントは、危険の芽を摘み取るための安全活動です。

災害に結びつくかもしれない危険の芽を見つけて、その危険の芽を事前に摘み取ります(これを**リスク低減**といいます。)。そうすることで、「安全度の高い職場」を実現することができます。

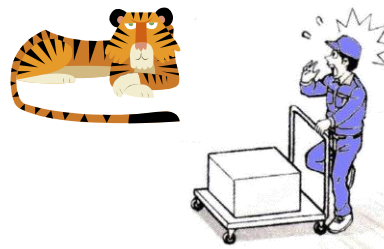
【リスクアセスメントの効果】

- ① 職場にどのような**危険**があるかが明確になります。
- ② 作業ごとに危険の程度(リスク)が評価され、災害防止に取り組むべき**優先度**が明確になります。
- ③ リスク低減の取組を実施した場合、**リスク低減の効果**が明確になります。
- ④ より災害が起きにくく、起きても被災の程度が軽度で済む**安全度の高い職場**が実現します。
- ⑤ 事業場全体として取り組むので、安全に対する意識が高まり、**危険への感受性**も高まります。

● 危険の芽を摘み取る方法には色々あります。

ヒヤリ・ハット活動 (HH)

ヒヤリしたり、ハットしたり、事故や災害になる一歩手前の体験を集めて、関係者に周知したり、危険回避の方法を事前に検討する活動です。



危険予知活動・危険予知訓練 (KYK, KYT)

作業の開始前に、危険の芽を見つけ、危険を事前に回避する活動です。おおよそ次のような手順で実施します。

- 第1ラウンド「どんな危険が潜んでいるか」
- 第2ラウンド「これが危険のポイントだ」
- 第3ラウンド「あなたならどうする」
- 第4ラウンド「私たちはこうする」→「指差し呼称」で確認



リスクアセスメント (RA)

職場の危険について、そのリスクを評価し、リスクの高いものから、そのリスクを下げる対策を実施するものです。設備や作業方法など本質的な対策の検討が必要です。

- ステップ1 **危険(箇所・作業)を特定**
- ステップ2 災害の可能性と重大性について、**危険の程度を見積る**
- ステップ3 **危険の度合い(リスクレベル)を評価** → 優先順位が明らかに
- ステップ4 優先順位の高いものから**リスク低減対策**を検討する
- ステップ5 実施する**リスク低減対策**を決定し、実施する

ポイントは、危険の芽に、危険度合いの色づけをして、優先順位をきめること！



次は、実際にリスクアセスメントを体験してみましょう。

2 リスクアセスメントを体験してみましょう

ステップ1～5でリスクアセスメントを実施し、労働災害防止対策の優先順位を決めます。

【ステップ1】 危険(源)の特定 (洗い出し)

対象とする職場に、どんな危険箇所、危険作業があるか見つけます。

手 順	飼育員のつぶやき
どんな危険がありますか？ ⇒ ・トラが柵から出てきそうで危険 (危険箇所) ・餌やりのとき噛まれるかも (危険作業)	トラがいる。 だいぶ大きくなってきたけど大丈夫かな

リスクアセスメントと一緒に体験してみましょう



【ステップ2】 リスクの見積もり

見つけた危険がどれくらい危険か、表1、表2を使って、リスクの見積もりをしましょう。

手 順	飼育員のつぶやき
災害発生の可能性は？ 被害の重大性は？ ① 柵が低い。飛び出て来て怪我をしそう。 ⇒ 災害の可能性=大 (表1) ② 大怪我をしそう。 ⇒ 災害の重大性=大 (表2)	トラの餌やり作業を考えてみよう。 柵はあるけど低いなあ。 鎖でつながないと危ないな。 お腹が空いていると危なそう。

この柵なら飛び越えられるなあ。



次はステップ3(リスクレベルの評価)です。(次ページへ)

表1 災害の可能性の評価

労働災害発生の可能性	評価	内容の目安
可能性が高い	大	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に長時間行われる作業に伴うもので回避困難なもの 日常的に行われる作業に伴うもので回避可能なもの
可能性がある	中	<ul style="list-style-type: none"> 非定期的な作業に伴うもので回避可能なもの
可能性はほとんどない	小	<ul style="list-style-type: none"> まれにしか行われない作業に伴うもので回避可能なもの

表2 災害の重傷性の評価

災害発生時の重傷性	評価	内容の目安
致命的・重大	大	<ul style="list-style-type: none"> 死亡災害や身体の一部に永久的損傷を伴うもの 休業災害 (休業1か月以上のもの) 一度に多数の被災者を伴うもの
中程度	中	<ul style="list-style-type: none"> 休業災害 (休業1か月未満のもの) 一度に複数の被災者を伴うもの
軽度	小	<ul style="list-style-type: none"> 不休災害やかすり傷程度のもの

【リスクアセスメントは労働安全衛生法の努力義務】 労働安全衛生法第28条の2 (事業者の行うべき調査等)

「事業者は、厚生労働省令で定めるところにより、建設物、設備、原材料、ガス、蒸気、粉じん等による、又は作業行動その他業務に起因する**危険性又は有害性等を調査**し、その結果に基づいて、この法律又はこれに基づく命令の規定による措置を講ずるほか、労働者の危険又は健康障害を防止するため**必要な措置**を講ずるように努めなければならない。」

【わかりやすく表現すると】

「**危険性又は有害性**」は一般的には「**ハザード**」といわれます。どのくらい危険かという程度まで考えた場合は「**危険性又は有害性等**」と表現され、これが「**リスク**」ということです。

そして、「危険性又は有害性等の調査」が「**リスクアセスメント**」ということになります。法律では、リスクアセスメントを実施するだけでなく、その結果に基づく必要な措置も求められています。

【ステップ3】 リスクレベルの評価（危険度の総合評価。優先順位がわかる）

危険の程度(リスク)を総合評価し、優先度を明らかにします。ステップ2をもとに、表3を使って評価しましょう。

手 順	飼育員のつぶやき
リスクレベルは？ ステップ2で、災害の可能性(大)、災害の重大性(大) ⇒ リスクレベル3（表3） 危険度高い。直ちに作業を中止して、リスク低減措置実施が必要。(表4)	リスクレベル3！。危険。 即刻作業中止！ すぐに対策を実施しなければ。



表3 リスクレベルの評価(表1と表2をもとにしたリスクの総合評価)

災害の重大性 災害の可能性	致命的・重大 (大)	中程度 (中)	軽度 (小)
可能性が高い(大)	3	3	2
可能性がある(中)	3	2	1
可能性はほとんどない(小)	2	1	1

表4 リスクレベルに対応した優先度と措置の内容

リスクレベル	優先度と措置の内容
リスクレベル3 (危険度高い)	直ちにリスク低減措置を講ずる必要がある。措置を講ずるまで作業停止する必要がある。十分な経営資源(予算、人員等)を投入する必要がある。
リスクレベル2 (危険度中程度)	速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある。措置を講ずるまで、その作業を行わないことが望ましい。優先的に経営資源を投入する必要がある。
リスクレベル1 (危険度低い)	必要に応じてリスク低減措置を実施する。



【ステップ4】 リスク低減措置の検討（重要なポイントです。）

リスクレベル(優先度)に応じて、リスクを下げるための取組を検討します。

手 順	飼育員のつぶやき
<対策の検討(1)> 災害の可能性=中 災害の重傷性=大 ⇒ リスクレベル3 (危険度高い)	柵を高くしたらどうだろうか。 リスクレベルは下がらない。別の対策を考えなければ。
<対策の検討(2)> 災害の可能性=小 災害の重傷性=中 ⇒ リスクレベル1 (危険度低い)	柵の上も困ったら。 大分危険はなくなるな。



次はステップ5(リスク低減措置の実施)です。(次ページへ)

【評価表等の判断基準の決め方】

表1、2、3、4は、「マトリックス方式」により評価をするときの判断基準等の例を示したものです。評価方法には、危険な状態発生の頻度を加え、それぞれを数値で評価する「数値方式」もあります。どのような評価方法、判断基準の表にするかは各事業場で検討して決めます。

【ステップ5】 リスク低減措置の実施

優先度、リスク低減措置の効果などから実際どうするか経営として決定しましょう。
リスクアセスメントの結果は今後のために「記録」しておきましょう。

おとなしくしてい
よう。



手 順	飼育員のつぶやき
① 早急に対策2を実施することとする。その間作業は停止する。	どうしようかな・・・ ・対策2でもまだリスクが残るが・・・
② 対策2を実施した後も、安全な作業方法・保護具の着用などの教育を実施する。	・これを記録し、予算措置をして柵の目が細かな頑丈な檻にしよう。 ・もっとリスクを下げることも検討しよう。

【リスクアセスメントを成功させるには】

労働災害防止で最も重要なことは、トップが「安全への強い思いを表明」することです。トップのその思いを実現するための優れたツールがリスクアセスメントです。さらに、リスクアセスメントを効果的に実施するためには、組織全体として取り組むための体制と、継続的に取り組むためのPDCA（計画、実施、評価、改善）サイクルが必要です。リスクアセスメントの結果は、計画に生かすようにします。

【リスクアセスメントと危険予知活動（KY活動）の違い】

リスクアセスメントとKY活動とはよく似ていますが、次の違いもあります。それぞれ効果的に取り組みましょう。

実施	リスクアセスメント	KY活動
いつ	設備、作業方法、作業手順等を新規採用または変更するとき	毎日又は作業の都度
どこで	主に事務所、会議室などで	主に作業現場で
誰が	作業者、監督者、管理者、安全スタッフが（組織全体で）	作業者、監督者が
何を	設備や作業手順(書)を対象に	作業を対象に
どのように	作業を思い起こしながら、手順に従って	作業場を確認しながら
	危険の程度(優先順)を数値化などで明確にして	危険の有無で
	よく話し合い、時間とお金をかけて安全な設備、作業方法に改善	即決・即断で危険を回避
なぜ	職場や作業に潜む危険を根本的に減らすため	作業に潜む危険に迅速に対応するため

3 荷役作業のリスクアセスメントに挑戦

フォークリフトのパレットに乗って、荷の積付けを行っています。

棚の上に荷を乗せたり、取り出したりを、このような方法で日に2回くらい行っています。



STEP 1 どのような危険性があるか <危険性の特定>

STEP 2 どの程度危険性があるか <リスクの見積もり>

STEP 3 危険性のレベルはどれほどか <リスクレベルの評価>

STEP 4 どのようにしてリスクを下げるか <リスク低減措置の検討>

STEP 5 実際はどうするか <リスク低減措置の実施>

実際の職場でも実施して見ましょう。



さらに詳細な荷役作業のリスクアセスメントの実際は、当協会ホームページや「リスクアセスメントイラストシート」(陸災防図書)が参考になります。また、リスクアセスメント研修にも積極的に参加して理解を深めましょう。